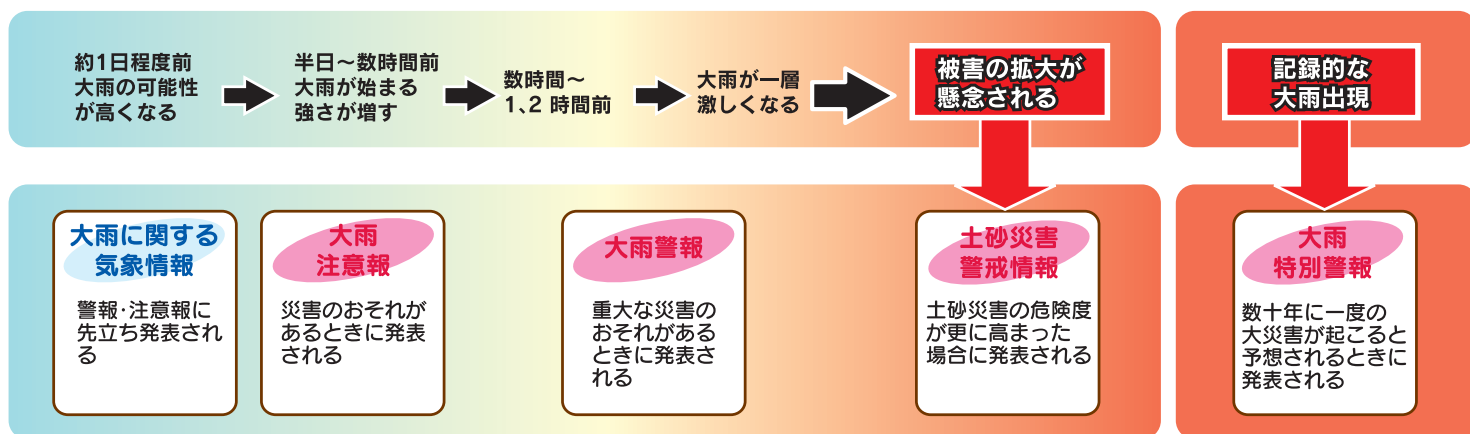


災害の予備知識



大雨の場合に気象台が発表する防災気象情報

大雨が予想された場合の各種防災気象情報の内容とタイミングの一例です。必ずこのような順序で発表されるとは限りませんが、どんなときにどんな情報が発表されるのかをイメージするのに活用して、防災意識を高めましょう。



災害に対する知識を蓄え、すばやく避難できるようにしましょう！

雨量の目安



やや強い雨 1時間雨量 10～20 mm

ザーザーと降り、雨の音で話し声が良く聞き取れない。この程度の雨でも長く続く時は注意が必要。



強い雨 1時間雨量 20～30 mm

どしゃ降り、傘をさしていてもぬれる。ワイパーを速くしても見づらい。側溝等があふれる。



激しい雨 1時間雨量 30～50 mm

バケツをひっくり返したように降り、道路が川になる。危険地帯では避難の準備が必要。



非常に激しい雨 1時間雨量 50～80 mm

滝のように降り、傘は全く役に立たなくなる。土石流が起こりやすい。多くの災害が発生する。



猛烈な雨 1時間雨量 80 mm以上

息苦しくなるような圧迫感があり、恐怖を感じる。大雨による大規模な災害が発生する恐れが強く、厳重な警戒が必要。

台風とは強い風や雨の両方あるいはどちらかを伴った最大風速が約17m/秒を超えて風が吹く熱帯低気圧のことです。一般に台風の勢力は「大きさ(風速15m/秒以上の半径)」と「強さ(最大風速)」で表されています。

台風の大きさと強さ

大きさ

「大型台風」または「大きい台風」

風速15m/秒以上の半径が500km以上～800km未満

「超大型台風」または「非常に大きい台風」

風速15m/秒以上の半径が800km以上

強さ

「強い台風」

最大風速33m/秒以上～44m/秒未満

「非常に強い台風」

最大風速44m/秒以上～54m/秒未満

「猛烈な台風」

最大風速54m/秒以上

風と被害

平均風速(m/秒)	人への影響・屋外の様子
10 以上 ～15 未満 【やや強い風】	風に向かって歩きにくくなる。樹木全体が揺れる。電線が鳴る。
15 以上 ～20 未満 【強い風】	風に向かって歩けない。転倒する人も出る。小枝が折れる。
20 以上 ～25 未満 【非常に強い風】	しっかりと身体を確保しないと転倒する。鋼製シャッターが壊れ始める。
25 以上 ～30 未満 【非常に強い風】	立ってはいられない。屋外での行動は危険。ブロック塀が壊れ、樹木が根こそぎ倒れ始める。
30 以上 【猛烈な風】	屋根が飛ばされたり、木造住宅の全壊が始まる。